

令和6年度事業計画の件

本事業計画は定款第38条により令和5年度第6回理事会で承認しました。内閣府に令和6年3月29日に届け出たものです。届け出後に確定した日程を加筆してあります。

公益社団法人日本栄養・食糧学会

令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）事業計画

<基本方針>

公益社団法人に相応しい、社会に貢献する学術法人として、理事会が中心となって、目的とする公益事業推進のための体制を維持・発展させ、一層の改革を進める。さらなる公益事業の推進と財政基盤の安定化のため、会員の増加を目指した活動と並行して、税法上の特定公益増進法人であることを生かし、各事業における収入源を確保していく。特に一昨年度は第22回国際栄養学会議のために積み立ててきた特定資産を取崩し、計画的に自己資金を消費して、第22回国際栄養学会議を東京国際フォーラムで開催し、令和5年度に決算を終えて開催報告書を作成した。このことによる学会の資金的な懸念はなく、今後も本法人の安定的運営を継続すべく財政安定化をさらに目指していく計画である。令和6年度は、新たに6年間の特定費用準備資金積立（国際活動特定資産）を設け、アジア栄養学連合、アジア近隣諸国の栄養学会との交流促進、アジア栄養学会議や国際栄養学会議等への積極的な参加を促す予定である。

公益目的事業の展開のうち、まず栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公1事業）として、以下を行う。

- ・第78回年次大会を福岡市において開催する。これまでの年次大会と同様に特別講演、シンポジウム、国際シンポジウム、医学系学会との合同シンポジウム、市民公開シンポジウム等が企画されている。特に今回は緊急企画として能登半島地震に対するパネルディスカッションを現地からの参加も含めて開催する予定である。また一般講演は口頭発表の形式で実施し、別途ポスター発表による審査も行い学生優秀発表賞を授与する制度を継続する。一般講演の中から先進的・画期的な優れた講演を選出し、大会前にプレス発表を行っており、第74回大会からプレス発表された講演についてトピックス賞を授与しており、これを継続する。また、第69回大会より授与している技術賞を継続し、産官学連携の一層の充実を目指し、公益法人として関連する産業の発展に寄与することを目指した活動を継続する。
- ・各支部においては、支部大会およびシンポジウム等を、各支部により企画されたテーマのもと関連学会とも連携を図りつつ開催する。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公2事業）の展開については、以下を行う。これらの事業展開は、学会内の各委員会により効率よく進めるものとする。

- ・公益目的事業を維持しつつ、時代の変化に対応していくために、理事会の活動を強化し、当学会の今後の進路を明確にするため、将来構想検討委員会が中心となって、本学会の一層の発展を中長期的に検討する。
- ・第22回国際栄養学会議開催後の本学会が行うべき活動内容に関して、栄養科学並びに食糧科学のさらなる発展に寄与すべく、将来構想検討委員会を中心に検討を開始する。
- ・近年宇宙への関心が高まり、各国の宇宙計画が企画され、宇宙空間での健康・栄養などの研究開発がより求められているため、宇宙食健康認定制度を設け、専門人材の育成や資格制度を設けることを計画しており、認定事業（公3事業）として対応すべく、内閣府とも協議を進めていく。
- ・学会誌、英文誌の刊行を通して人々の健康・福祉の向上に寄与する。日本栄養・食糧学会誌の定期的な刊行継続においては、編集委員会・用語委員会と連携し、学会誌編集業務のさらなる効率化を図る。日本ビタミン学会と合同編集の英文誌 Journal of Nutritional Science and Vitamology (JNSV) においては、日本ビタミン学会との協議に基づき平成30年2月から実施したペーパーレス化を定着させ、会員にとってより投稿しやすく、かつ世界の栄養学術誌としての地位を高め、より質の高い英文誌として認知されるよう活動を継続する。令和2年末からは、日本ビタミン学会の他、FANS (Federation of Asian Nutrition Societies) も参加することになり、国際化が更に図られることとなった。
- ・当学会が所属している日本栄養学学術連合（令和6年度から栄養関連16学会で構成）では、2021年12月7日～8日に開催された「東京栄養サミット2021」に参加し、コミットメントを表明した。令和4年度からコミットメントに対応する年間実績の報告が求められ、ワーキンググループを作り、継続的に対応する。
- ・利益相反（COI）委員会および理事会での検討を基に、本格運用に入ったCOI制度に関して、申告すべきCOI状態のある会員の利便性を向上させる観点からの改革を進める等、本学会にふさわしい制度を目指す。合わせて倫理規定の見直し等を行い、COI制度との整合性を検討していく。
- ・令和6年度からは、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会へ参加し、「ダイバーシティ推進委員会」を設置する。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行拡大時に、各種会議はオンラインによるWeb会議となり、そのためのWeb会議システムを支部に導入した。事務局では、データ共有・保存システムを刷新し、個人情報などを的確に保護・管理する体制にし、担当業務によっては、テレワークが可能な体制を構築したので、これらを継続して活用していく。

以上の基本方針をもとに、下記事項を推進する。

I 学会運営および会員サービスの更なる基盤強化

- 1) 公益法人認定法に基づく公益事業推進体制の充実
- 2) 理事会のガバナンスによる学会運営の着実な実施とコンプライアンスの強化
- 3) 会員増を目指した活動の継続
- 4) 寄附金の積極的受け入れ
- 5) 外部団体（日本学術会議、日本医学会連合、日本栄養学学術連合、等）への貢献・協力
- 6) 日本栄養・食糧学会技術賞等による産官学連携の一層の強化
- 7) 栄養・食糧学に関する研究開発の国際協力を発展させ、国際人材の育成に努める

- 8) 利益相反 (COI) 指針・細則等による COI 管理の実施
- 9) 年次大会における学生優秀発表賞の継続実施と、栄養・食糧学基金や若手研究助成を中心とする若手会員の支援強化
- 10) 年次大会におけるトピックス賞継続実施
- 11) 年次大会における国際シンポジウム、医学系学会との合同シンポジウムの継続的開催
- 12) 大会講演要旨集の Web 公開の定着とデータの蓄積
- 13) 食と健康の未来に向けた議論の開始と社会への発信準備

II 各種事業活動の推進

<栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業 (公1)>

1) 大会事業の推進

(1) 第78回日本栄養・食糧学会年次大会の開催

会頭 立花 宏文 九州大学大学院
期日 令和6年5月24日(金)~26日(日)
会場 アクロス福岡、中村学園大学(福岡市)

- ・特別講演
- ・教育講演
- ・国際シンポジウム
- ・医学系学会との合同シンポジウム
- ・シンポジウム
- ・研究発表
- ・市民公開シンポジウム
- ・関連学会集会

(2) 支部事業(発表・講演会・シンポジウム等)の推進

・北海道支部

i) 第54回日本栄養・食糧学会北海道支部大会

期日 令和6年秋頃
会場 北海道函館市(予定)
東北支部との合同大会

ii) 支部シンポジウム

期日 未定
会場 未定

・東北支部

i) 第58回日本栄養・食糧学会東北支部大会

期日 令和6年秋頃
会場 北海道函館市(予定)
内容 支部参与会、支部報告会、一般講演、情報交換会
北海道支部との合同大会

ii) 公開シンポジウム

期日 令和6年秋頃
会場 北海道函館市(予定)

・関東支部

i) 第113回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

期日 令和6年9月~10月頃
会場 未定
同時に参与会開催

ii) 第27回健康栄養シンポジウム

期日 令和7年2月~3月頃
会場 未定
協賛 未定

iii) 第114回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

期日 令和7年2月~3月頃
会場 未定

・中部支部

i) 第83回日本栄養・食糧学会中部支部大会

期日 令和6年11月23日(土)(予定)
会場 静岡県立大学(静岡市)

・近畿支部

- i) 第 63 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会
期日 令和 6 年 10 月 26 日 (土) (予定)
会場 京都府立大学 (京都)
- ii) 若手活動支援事業 (近畿支部若手奨励賞)
期日 令和 6 年 10 月 26 日 (土) (予定)
会場 京都府立大学 (京都)
- iii) 若手活動支援事業 (第 15 回栄養学を志す若手のためのフォーラム)
期日 令和 6 年 10 月 26 日 (土) (予定)
会場 京都府立大学 (京都)
日本栄養改善学会近畿支部共催

・中国・四国支部

- i) 第 57 回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会
期日 令和 6 年度 11 月 16 日 (土)・17 日 (日)
会場 ノートルダム清心女子大学 (岡山市)
大会長 林 泰資 (ノートルダム清心女子大学)

・九州・沖縄支部

- i) 令和 6 年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会
一般講演、シンポジウム、「栄食支部発表賞」2 次審査・授賞式
期日 令和 6 年 11 月 9 日 (土)・10 日 (日)
会場 長崎県立大学 (長崎県)
会頭 古場 一哲 (長崎県立大学)
日本食品科学工学会西日本支部との合同大会

2) 表彰事業の推進

- (1) 令和 6 年度表彰授与式開催 (令和 6 年度定時社員総会時)
功労賞 3 件、学会賞 3 件、奨励賞 2 件、技術賞 1 件
学生優秀発表賞 10 件 (令和 6 年度学術大会時)
トピックス賞 22 件 (令和 6 年度学術大会時)
- (2) 令和 7 年度対象各賞選考の実施
各種授賞等選考委員会開催 (令和 6 年 12 月)
功労賞 3 件以内、学会賞 3 件以内、奨励賞 3 件以内、技術賞 2 件以内の推薦
- (3) 外部団体への授賞推薦の推進
年間スケジュールの公開と更新の実施

3) 助成・助成推薦事業の推進

- (1) 支部大会事業活動の支援
- (2) 基金交付対象の選考の実施
- (3) 外部団体への助成推薦の推進
学会誌等へ掲載し、その公示をタイムリーに行う。

4) 栄養科学・食糧科学に関する研究・調査事業

- (1) 健康・食品保健表示に関する検討
栄養成分表示および保健機能食品の現状・動向を調査するとともに、普及啓発を行う。日本人の食事摂取基準の普及啓発を行う。特に、第 78 回年次大会において「日本人の食事摂取基準 (2025 年版)」に関するシンポジウムを開催する。
- (2) 栄養・食糧学用語に関する検討
昨年度に引き続き学術用語の管理を行う。栄養・食糧学用語辞典 (第 2 版) における見出し語ならびに説明文の検証を引き続き行う。用語の修正・新規収録を検討し、ホームページへの掲載を目指す。

5) 国際交流事業の推進

- (1) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS、アジア栄養学会連合) 関係
FANS と連携し、その事業を支援する。
- (2) International Union of Nutritional Sciences (IUNS、国際栄養科学連合) 関係
IUNS と連携し、その事業を支援する。
- (3) International Union of Food Science and Technology (IUFoST、国際食品科学工学連盟) 関係
IUFoST Japan と連携し、その事業を支援する。
- (4) 海外関連学会との連携
第 78 回年次大会での国際シンポジウムとして、Korean Society of Food Science and Nutrition (KFN、韓国食品栄養科学会) との共催シンポジウムを実施する。

6) 倫理審査事業の推進

- (1) 倫理審査ならびにそれに関するアドバイスの実施
新規程に基づき設けられた新委員会における審査ならびに関連したアドバイスを実施する。

(2) 倫理審査規程の随時見直し

わが国すべての人を対象とした生命科学・医学系研究が対象となる、厚労省、文科省、経産省合同の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の運用に関する「ガイダンス」の見直しや解釈をモニターし、その変化を必要に応じて本学会規程に反映させる。

(3) 年次集会発表における人対象の研究に関する倫理審査について

昨年、日本医学会連合研究倫理委員会より発布された「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」に基づき、他学会の動向も見極めつつ、本学会年次集会におけるヒト対象の研究についての倫理審査チェックのあり方について検討を開始する。

<栄養科学並びに食糧科学の情報の活用推進と普及事業（公2）>

1) 出版事業の推進

(1) 日本栄養・食糧学会誌の刊行

第77巻2号～6号、第78巻1号を定期的に刊行する。

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV) の刊行

日本ビタミン学会との共同編集で、Vol.70-No.2～No.6、Vol.71-No.1を定期的にWeb公開する。各国の関連学会、特にFANSとの連携を強化しつつ、英文誌としてさらなる国際化を図る。

2) 広報事業の推進

(1) 会員向けメールマガジン「栄食ニュース」の充実と定期発信

(2) 関連学術団体、関連機関との連携及び依頼記事の広報推進

(3) ホームページの告知・掲載記事に関し、确实、迅速な更新の実施

III 総会、理事会等の開催（予定）

1) 定時社員総会

令和6年 5月 24日（金）

2) 理事会

第1回

令和6年 4月 27日（土）

第2回

令和6年 5月 23日（木）

第3回

令和6年 7月 27日（土）

第4回

令和6年 10月 19日（土）

第5回

令和7年 1月 25日（土）

第6回

令和7年 3月 22日（土）

3) 業務執行理事打合せ

第1回

令和6年 7月 13日（土）

第2回

令和6年 10月 5日（土）

第3回

令和7年 1月 18日（土）

第4回

令和7年 3月 8日（土）

4) 名誉会員・終身会員推薦委員会

令和7年 1月 18日（土）

5) 名誉会員・顧問懇談会

第78回大会中に開催予定

6) 各支部の参与会

支部大会にて

IV 委員会活動

1) 常置委員会

①各種授賞等選考委員会（規程により委員は非公開）

②学会活動強化委員会

（委員長 白川 仁）

③倫理審査委員会

（委員長 曾根 博仁）

④国際交流委員会

（委員長 菅原 達也）

⑤学会誌編集委員会

（委員長 上西 一弘）

⑥広報委員会

（委員長 大森 玲子）

⑦用語委員会

（委員長 上原万里子）

⑧将来構想検討委員会

（委員長 芦田 均）

⑨健康・食品保健表示検討委員会

（委員長 石見 佳子）

2) 非常置委員会

①宇宙食健康認定制度検討委員会

（委員長 二川 健）

3) 定款第35条2.による委員会

①中央選挙管理委員会

（委員長 片倉 喜範）

②利益相反（COI）委員会

（委員長 曾根 博仁）

③ダイバーシティ推進委員会

（委員長 熊谷日登美）

4) 日本ビタミン学会との合同委員会

JNSV 編集委員会

（委員長 佐藤 匡央）

V その他活動

1) 日本栄養学学術連合関係

日本栄養学学術連合は、日本の栄養科学・食糧科学に関する 16 学会の連合体であり、現在は日本栄養・食糧学会が世話人を務めている。

日本栄養・食糧学会としては、日本栄養学学術連合と連携し、東京栄養サミットで策定したコミットメントの実行に努める。

2) 日本医学会分科会関係

日本栄養・食糧学会は、一般社団法人日本医学会連合の加盟学会となっており、同連合の委員会・WG に委員を出し協力している。2022 年 12 月には、日本医学会連合の領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）に日本動脈硬化学会が研究代表機関となって申請されたテーマ「動脈硬化性疾患（ASCVD）予防および治療を目標とし、メタボリックシンドローム・脂質異常症に対して日本食パターンを基にした生活習慣改善の周知普及」の採択が通知された。このプロジェクトは、基礎部門として日本栄養・食糧学会 1 学会が、社会部門 2 学会、臨床内科部門 6 学会、臨床外科部門 2 学会、その他医学会非加盟学会 6 学会の総勢 17 学会が加盟し、令和 5 年度は日本動脈硬化学会が中心となって事業が行われ、令和 6 年度には前年度成果について日本栄養・食糧学会をはじめ協力学会により協議・修正を経て最終成果物の作成等の事業活動が行われる予定である。

また、例年通り、第 78 回年次大会では、医学系学会との合同シンポジウムを開催する。なお、日本医学会連合の領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）の 2024 年度事業において、3 件のプロジェクトについて研究代表機関に協力する立場として 2024 年 1 月末に申請したが、下記の 2 件が採択された。

これらのプロジェクト活動を通じて、研究・開発・学術活動の更なるレベルアップを図りたい。

・研究代表機関：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、テーマ：「いつまでもおいしく食べる」ための、多学会連携による嚥下障害対策の普及活動」

・研究代表機関：日本糖尿病学会、テーマ：「薬剤の適正使用と「健康」に対する理解促進のための啓発活動」